

就職率99%の高専 「好きなこと追求」出身者が蓄る魅力

全国に58（国立51、公立3、私立4）校ある高専。これまでに約50万人が卒業し、製造業や鉄道、金融、スタートアップなど様々な業種・分野で活躍している。企業の採用熱も高まるばかりで、国立高専生の就職率は99%に達する。人財の宝庫ともいえる高専の魅力を3人の出身者に語ってもらった。

セブン銀行社長・松橋正明氏 やりたいこと、とことんできる



釧路高専出身のセブン銀行社長・松橋正明氏

釧路高専では機械工学を学んだ。高専時代は本当に好きなことを学べたと思う。自由に、集中的にのめり込むことができた。夜遅くまで研究室にいた。研究で立ち止まっていると、先生から「見る角度を変え、既成概念を捨ててゼロから考えたら」とアドバイスをいただいたのは本当に貴重な経験だった。「常識を疑う」ことは、社会人になってから大いに生かされた。現役の高専生に伝えたいのは、「いろいろなことをトコトンやれば自分のモノになる」ということ。ゲームを楽しんでもいい。楽しんでいる自分について、「なぜこのゲームを楽しんでいるのか」を考えるとその世界観、操作性を実現する原理にまでたどり着くはずだ。技術とビジネスをつなげる力とユニークな発想を実現する力が養われる。結果として「自走できる人財」へとなる。

ファッションデザイナー・幸田フミ氏 答えのない学びが力に



神戸市立高専出身の幸田フミ氏

女性用ビジネスバッグなどを展開する「FUMIKODA」ブランドのクリエイティブディレクターの仕事の傍らで、高専出身者による交流組織「高専人会」の理事を務めている。

高専では暗記型ではなく、答えがないものを探究する学びをする。自分の興味関心の赴くまま、新たな問いが生まれてどんどん先に進むことができる。このような思考訓練を10代半ばの多感な時期にできることは貴重な経験だ。

4年生の時にデザインに興味を持ち、神戸市立高専を自主退学した。コンピューターグラフィックスを学ぶため米国に渡り、2年かけてパーソンズ美術大学に入学した。英語も十分に話せず、知人もいないといった苦難の日々を乗り越えられたのは、高専時代に自分がどうあるべきかを考え、デザイナーになりたいという強い意志を持っていたからだと思う。

フラー会長・渋谷修太氏 学生寮で経営を学ぶ



長岡高専出身のフラー会長・渋谷修太氏

2011年に23歳で起業したフラー（新潟市）は、長岡高専を卒業した自分を含めた創業メンバーの5人全員が高専出身者だ。現在も社員175人のうち約2割を高専出身者が占めている。

高専生は15歳で5年間学び続ける専攻を選ぶ。その研究分野が好きだからこそ学び続け、能力を高めていく。好きなことを追求できることが高専生にとって大きな財産であり、ビジネスの現場でも役立っている。

入学して最初に驚いたことも、こうした好きなことを追求する猛者たちの存在だった。パソコンの基本ソフト（OS）を設計したり、ロボットをつくりたりしていたことに驚かされた。寮生活も大きな経験となった。学生自治の寮の運営に積極的に関わった。約300人が生活する寮全体の運営に携わりといった経験が、現在の経営にも役立っている。

産業界へ学問へ、道はあまた 就職先の首位パナソニック

国立高専機構によると、卒業生（本科）のうち就職希望者の就職率は99%台に達する。2024年春の就職者（5093人）を産業別で見ると、製造業が2365人と最も多く、情報通信業（756人）と建設業（530人）が続く。デジタル人材としても期待される高専生の活躍の場は幅広く、様々な業種の企業間で争奪戦は過熱している。

国立高専生（本科、専攻科）の24年春入社就職先を国立高専機構の協力を得て独自集計したところ、就職ランキング上位の顔ぶれは電機、化学、電力、半導体関連など幅広い業種が並ぶ。人口減・高齢社会の中で、腕に覚えのある高専出身者の活躍の場はますます広がっている。

就職ランキングのトップはパナソニックグループ（113人）で、23年春から39人増やした。高専生を積極的に採用しており、この10年で採用数を約3倍に増やしている。

従業員の高齢化や退職が進む中、技術の伝承には「ものづくりや現場を大切に高専出身者は即戦力」との位置付けだ。来年も100人を超える採用になるという。

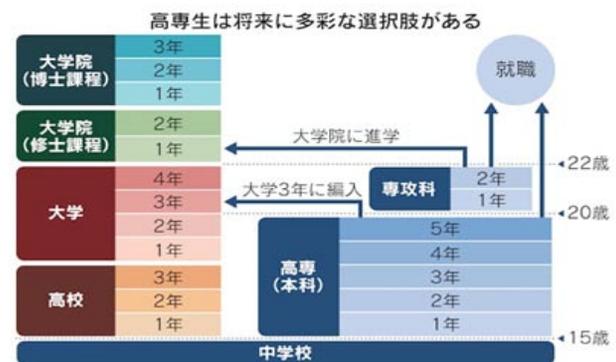
| 順位 | 企業名 | 採用数 (うち女性) | 23年 |
|----|---------------------|---------------|-----|
| 1 | パナソニックグループ | 113 (21) | 74 |
| 2 | 旭化成 | 89 (21) | 57 |
| 3 | サントリーグループ | 72 (6) | 67 |
| 4 | NTT-ME | 54 (10) | 50 |
| | (NTT東日本グループ(エンジニア)) | | |
| | JR西日本 | 54 (7) | 11 |
| 6 | 三菱電機 | 41 (7) | 28 |
| 7 | ダイキン工業 | 40 (4) | 37 |
| | 国土交通省 | 40 (18) | 41 |
| 9 | 中国電力ネットワーク | 38 (4) | 33 |
| | 京セラ | 36 (5) | 38 |
| | 関西電力 | 36 (7) | 41 |
| 10 | 富士電機 | 36 (8) | 31 |
| | メンバーズ | 36 (12) | 52 |

2位は旭化成（89人）、3位はサントリーグループ（72人）だった。

JR西日本は採用数を23年春の約5倍に増やし、4位に入った。これまで「高専卒」の区分はなかったが、23年度から新たに設けて採用を積極化した。専門知識を持つ高専生について「新規市場で価値創造できる人財」として、その実力を期待している。

6位の三菱電機は技術者の採用方針を大きく変え、高専生の大量採用につながった。24年度入社から高専卒、大学卒、大学院卒の給与体系について年齢給は残すものの賃金テーブルを統一。教育も大卒以上の社員と同じにした。

高専の現場からは「丁寧な採用活動をしてくれる」との声が上がっている。全国の製作所から採用担当者や高専出身社員がキャンパスに出向き、働くイメージやキャリア形成などを説明している。



12月に本格出荷の開始を控える台湾積体回路製造（TSMC）熊本工場の運営子会社「JASM」は26人を採用するなど、採用意欲が旺盛だ。九州地区の高専は地元の大学と連携し、半導体教育にも積極的に取り組んでいる。半導体人材の育成は北海道地区の高専でも進んでおり、27年に千歳市で最先端の演算用半導体を量産するラビダスも高専生の採用を始めた。卒業後に高専の専攻科や大学に編入学する進路もある。国立高専の卒業生のうち、約25%が大学に編入学している。

（編集委員 田中陽、荒木玲、遠藤邦生）

日本経済新聞 2024年11月27日